

医療の質向上・安全推進センター（QSセンター）

1. スタッフ（2022年4月1日現在）

センター長（医師）	新保 昌久（専任）
副センター長（医師）	味村 俊樹（専任）
医師	◎野本 佳恵（専従）
看護師	◎高久 美子（専従）
看護師	◎飯田 久子（専従）
薬剤師	◎霜多 博孝（専従）
看護師	井上佐代子（専従）

（◎ 専従医療安全管理者）

【安全推進部門】

部門長（医師）	新保 昌久（専任）
副部門長（医師）	佐久間康成（兼）
副部門長（医師）	門田 行史（兼）
副部門長（医師）	間藤 尚子（兼）
副部門長（医師）	藤井 裕之（兼）
副部門長（看護師）	亀田美智子（兼）
医師	高橋 詳史（兼）
医師	益子 貴史（兼）
医師	薄井 佳子（兼）
教員	前田 佳孝（兼）

【質向上・臨床倫理部門】

部門長（医師）	味村 俊樹（専任）
副部門長（医師）	堀江 久永（兼）
教員	鈴木 義彦（兼）

【医薬品・医療機器安全管理部門】

部門長（医師）	今井 靖（兼）
副部門長（医師）	川人 宏次（兼）
薬剤師	片野 昌宏（兼）
臨床工学技士	木村 好文（兼）

【渉外担当部門】

部門長（医師）	新保 昌久（専任）
---------	-----------

事務 8名

2. 医療の質向上・安全推進センターの特徴

院内で発生した医療安全上の諸問題に組織横断的に対応するため、2003年4月に病院長直轄組織の「医療安全対策室」を設置、2004年には「医療安全対策部」に改称し、2005年には専任の医師1人、看護師長2人を配置した。医療安全対策部は、院内インシデント報告制度の整備、職員研修の実施、事例分析、院内巡視、有害事象後の対応等、院内の安全管理に関する多様な業務を担当してきた。

更に2017年4月に、高度医療を提供する特定機能病院における医療の質・安全管理体制を強化するため、新

たな医療安全管理部門として、「医療の質向上・安全推進センター」（略称：QSセンター）に改組した。新たな名称には、事故発生時の危機管理だけでなく、「平時の医療の質の向上が医療安全につながる」という理念と、「より前向きな取り組みで医療安全を推進していこう」という意気込みを込めている。QSセンターは、安全推進部門（インシデント報告の収集・分析、有害事象の原因究明、医療安全管理指針・各種マニュアルの整備、院内巡視による確認・指導など）、質向上・臨床倫理部門（高難度新規医療技術及び特定診療に関する審査・モニタリング、臨床倫理への対応など）、渉外担当部門（有害事象・訴訟への対応など）に加え、2019年4月から医薬品・医療機器安全管理部門（未承認新規医薬品・医療機器、適応外医療機器に関する評価・モニタリング・監査への対応など）が設置され、それぞれ専従、専任、兼務スタッフ及び各部門のQSマネージャーと連携して、医療の質と安全を高める取り組みを進めている。

3. 実績・クリニカルインディケーター

●業務内容

- （1）医療安全に関する情報収集、分析、改善策の立案、周知、評価
- （2）医療安全対策の提案・情報提供（啓発活動）
- （3）医療の質向上・安全推進委員会、QSマネージャー会議の開催
- （4）職員に対する教育（講習会、研修会の開催）
- （5）全死亡症例の把握
- （6）有害事象発生時の支援
- （7）高難度新規医療技術及び特定診療に関する審査・モニタリング
- （8）インフォームドコンセントの適切な実施
- （9）臨床倫理に関する情報収集、連絡調整
- （10）未承認新規医薬品・医療機器及び適応外医療機器に関する審査・モニタリング・監査
- （11）医薬品・医療機器の安全使用のための情報収集、研修の実施
- （12）紛争事例への対応（総務課、患者サポートセンター医療福祉相談室と連携）

●2021年の主な活動実績

- （1）医療安全講習会（全職員対象）

①医療安全・感染対策合同講習会

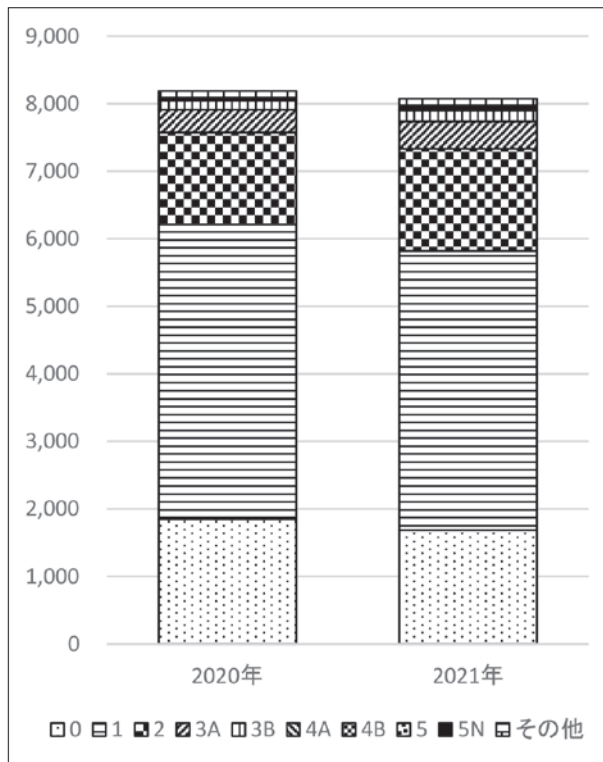
開催日 5月19日

演題 「医療安全2021 当院事例の再確認とインシデントレポートの活用方法」

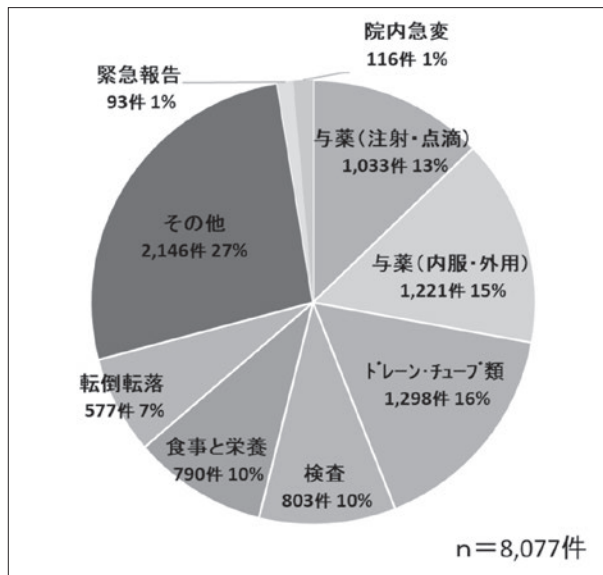
- 医療の質向上・安全推進センター
医師 野本 佳恵
- ②医療安全・感染対策合同講習会
開催日 9月27日
演題 「臨床倫理と説明・同意（IC）」
医療の質向上・安全推進センター
副センター長 味村 俊樹
- ③医療安全講習会
開催日 10月20日
演題 「医療者と患者を助けるカルテの作り方」
新伝馬法律事務所
弁護士 水澤亜紀子
- (2) 研修医医療安全セミナー
- ①開催日 2月8日
テーマ 「インシデント報告、臨床倫理とIC」
- ②開催日 5月17日
テーマ 「インシデント報告、採血時の注意点」
- ③開催日 6月21日
テーマ 「インシデント報告、臨床倫理とIC」
- ④開催日 10月11日
テーマ 「インシデント報告、ノンテクニカルスキル」
- ⑤開催日 12月6日
テーマ 「インシデント報告、インシデントレポートの書き方（復習）」
- (3) 医療安全に関する研修会
- ①新QSマネージャーオリエンテーション
・QSマネージャーの役割編（毎月1回）
- ②研修医感染・安全技術研修（4月）
・採血、ルート確保、輸液ポンプ演習等
- ③多職種合同医療安全研修会（4月）
・動画を用いたケースカンファレンス
- ④新人看護職員基礎技術研修（4月）
・安全確保1、2、3
- ⑤中心静脈カテーテル挿入技術認定研修会
・新規認定医 50名（6月）
- ⑥AED・心肺蘇生研修（10月）計4回 61名
- (4) 医療安全管理指針、マニュアル改正等
- ①医療安全管理指針
- ②QSマネジメントマニュアル
- ③QSマネジメントマニュアル（ポケット版）
- ④医薬品の安全使用のための業務手順書
- ⑤医療上の事故等の公表に関する指針
- (5) 安全情報
- ①QSセンター発行
The Q.S. Times（第43号～第54号）
- ②日本医療機能評価機構発行
医療安全情報（No.170～No.181）
- (6) 医療の質・安全に関する事例検討会 2回開催
- (7) 院内横断的活動
- ①人工呼吸管理安全対策チーム活動
- ②委託業者との連絡会
- ③中央手術部連絡会議
- ④医療材料審査委員会
- ⑤輸血療法委員会
- (8) 院内巡視
月2回 計16回
参加者内訳
QSセンター員：延べ97名
QSマネージャー：67名
- (9) 医療の質向上・安全推進委員会
毎月1回 第2火曜日
- (10) QSマネージャー会議
隔月1回 第3木曜日
- (11) モーニングカンファレンス
毎週水曜日
- (12) ワーキンググループ活動
- ①院内急変時対応
- ②中心静脈カテーテル（CVC）挿入
- ③気管切開安全対策
- ④インフォームドコンセント（IC）
- ⑤CHDF
- ⑥静脈血栓塞栓症（VTE）予防対策
- ⑦転倒転落
- ⑧モニターアラームコントロールチーム（MACT）

(13) インシデント・アクシデントレポート

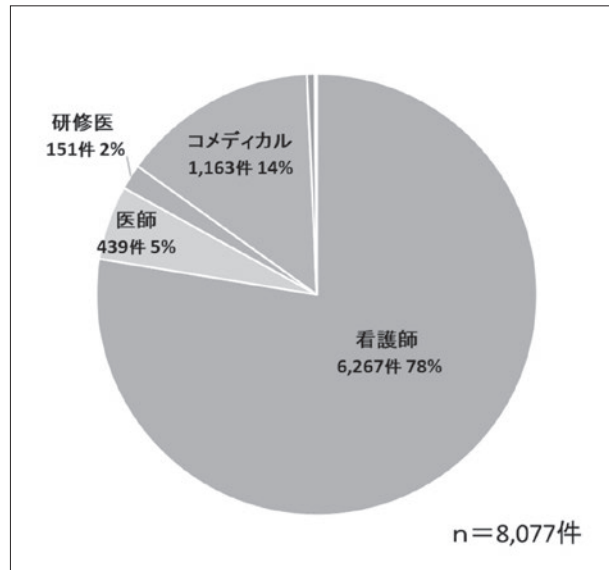
①報告件数比較 (2020年、2021年：1～12月)



②2021年 種類別報告一覧



③2021年 職種別報告一覧



(14) 日本医療機能評価機構との連携

- ・事例報告
- ・研修会の参加

(15) 社会、他の医療機関等に対する貢献

- ・患者安全・医療安全・医療の質に関する情報の提供、講師派遣

4. 2022年の目標・事業計画等

従来の業務に加え以下の諸事項を目標としている。

- ①各部署における医療の質向上と安全推進に向けたQSMマネージャーとの連携強化
- ②インシデント報告のさらなる推進と分析・活用の強化
- ③院内急変時訓練の推進、およびRapid Response System (RRS) の体制強化
- ④医薬品の安全管理の推進
- ⑤インフォームド・コンセント (IC) に関する啓発継続と活用状況の評価
- ⑥ワーキンググループ及び部会の活動強化

これらの目標達成へ向けての努力と並行して、病院内での横断的なコミュニケーションが円滑に進むように支援していきたいと考えている。